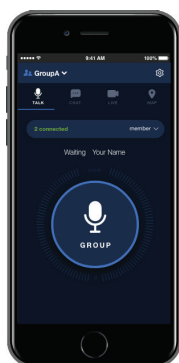


IP無線を導入して良かったこと

# “ 職員の連携が取りやすくなり、 ケアの質の向上につながっています ”

福祉施設

介護・BCP



話す相手と場所を選ぶことなく、ボタンを押すだけで一斉発信して話せるので、若い職員から50代の職員まで誰でも使えます。

特定の人物と話したい場合も、アプリ内から電話をかけることができるので、宿直のシルバー人材の方でも、シンプルで簡単なBuddycomを使いこなしており、社内で大好評です。今ではBuddycomが無いと業務が成り立ちません。

また、当施設では、入居者や利用者は施設内を自由に移動することができるため、彼らの所在地を常に職員間で音声で共有しています。

以前は所在地の確認にPHSで職員へ片っ端から所在地の確認電話をしていましたが、Buddycomでは迅速に全体に情報を共有することができるのでとても助かっています。



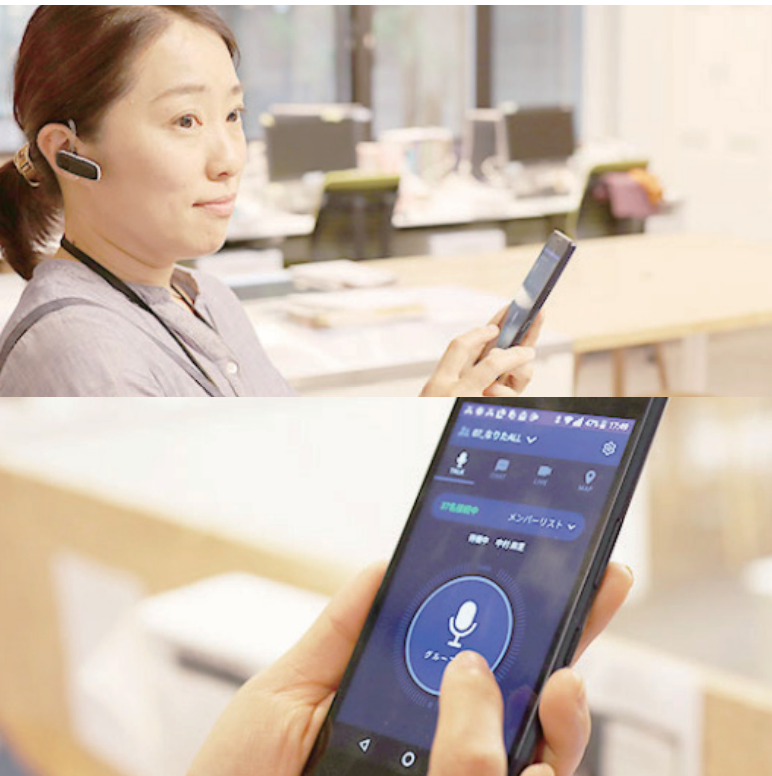


## 導入前の課題

以前は、職員はナースコールを受けるPHSと、当施設の入居者、利用者がどこにいるか、どこへ移動するかを共有するために無線機を持って業務にあたっていました。無線機は大きく持ち歩きにくかったので置きっぱなしになっていて、結局PHSでスタッフへ確認の電話をしており、情報共有や利用者の対応にとっても時間がかかっていました。

## 導入した理由

当社では、ケア記録を電子化するために「ケアコラボ」を使用し、スマホで介護記録を入力しています。スマホ導入の効果は大きく、ケアコラボ以外にも、もっと様々な業務がアプリで効率化できるようになるのではと思った矢先に、Buddycomの紹介を受けたのがきっかけです。また、消防署の指導で、災害時に配線が燃えてしまうとナースコールと連動しているPHSが使用できなくなるため、PHS代替製品の導入を提案されていました。そのため、4GやLTEでも使えるIP無線のBuddycomを選びました。



## 入居者の所在地の確認、 職員の申し送り対応、 防災訓練で活用。

Buddycomは利用者の急変時の対応でも活躍しており、すごくシンプルな操作で全体に発信ができるので、すばやく対応ができることが非常に助かっています。

例えば、「〇〇さんの所在がわかりません」、「〇〇さんが急変なので△△に集まってください」など、スタッフのバックアップが必要な場合でも、内容は周りにも全て共有されますのでとても役に立っており、「酸素を持って行きましょうか」、「救急車呼びましょうか」など、その場で手分けして対応することが可能になりました。また、災害時はユニットの外に利用者を案内する必要がありますが、災害時にWi-Fiの配線が燃えてしまってもモバイルデータ通信で利用できる、Buddycomを使った防災訓練もBCP対策として行なっています。



### 導入検討中の方へメッセージ

Buddycomを使うには、スマートフォンを導入する動きになっていないと始まらないですが、他にも様々な業務ツールをスマートフォンで利用できますので、とてもメリットがあると思います。



### 個人的にオススメできる点

一番使っているアプリで、もはやBuddycomなしでの業務は考えられません。職員と直接話す機会はスマートフォンによって減りましたが、普段顔が見えないからこそ、直接会う会議の意義を再確認できました。



株式会社サイエンスアーツ

WEB: [www.science-arts.com](http://www.science-arts.com)  
Service: [www.buddycom.net](http://www.buddycom.net)  
お問い合わせ: [info@science-arts.com](mailto:info@science-arts.com)

